

見沼自然散策

2017.5.3

花の後



ヘビイチゴは花が終わるとガクを閉じて実が熟すのを待つ(右)



カラスノエンドウは熟すと黒くなる。鞘がはじける時ねじれて、種を飛ばす



オヤブジラミの実 → 小さなとげとげがたくさんあって、獣の毛や服について運ばれる



マルバヤナギ 春先の「芽」と呼ばれているものが花。つんつん尖った緑色のものが実。はじけて綿毛と一緒に種を飛ばす(柳絮)

キジは鳴かずにいられない



キジのオスは。顔の赤い部分を目立たせ、大きな声で鳴いて縄張りを主張。そうでないと、自分の子孫を残せないから必死!



オオヨシキリはアシの茎に巣を架ける。オスは大きな声で縄張り宣言、メスを確保することに必死(子育てはしない)

見沼たんぼ地域ガイドクラブ

<http://www.minuma-guide-club.com/>

ハコベの仲間



ハコベは花弁が10枚あるように見えるが、よく見ると、1枚の花弁に切れ込みがあって2枚に見えている。左:ハコベ 右:ウシハコベ



ミノツヅリ(左) ミノフスマ(右)



オランダミナグサの花弁は切れ込みが浅い

テントウムシ



ナナホシテントウの幼虫(左) 蛹(中) 成虫(右)

ナナホシテントウは幼虫も成虫もアブラムシを食べる

シナノキが住まい



シナノキの花は根元に大きな翼があり、実が熟すと翼が付いたまま風に乗る。シナノキの樹皮からとれる繊維で帯や小物を作る。



タケウチトゲアワフキは体長5ミリほど。幼虫時代はシナノキの枝につけた管の中(右)で暮らし樹液を吸う。成虫になってもシナノキで暮らし



シナノキで見つけた昆虫。ゾウムシ・ナナフシ・クモ